

馬の育成より子どもたちの育成を！



12月大津市議会で一般質問に立った岸本のり子議員は、伊香立サイエンスパークをめぐる問題や子どもの医療費や給食について取り上げました。

こんにちは

岸本のり子です



市民の血税で

URの不良債権

肩代り！



都市再生機構（UR）は、開発途中の伊香立サイエンスパークの事業方針を転換。このため、未施行区域（165ヘクタール）が宙に浮いた形になっています。この土地を大津市が買い取り、北部地域活性化の拠点として、レストランや競走馬の育成施設などの誘致を行おうとしています。

今年度中に事業者を公募し、市がURから買い上げた土地を民間にそれに見合う賃料で貸す、買取価格や経済効果は、事業者の選定後算定すると繰り返し答弁。不動産関係者によれば、買取価格は数十億円を下らないと思われます。

水面下で、ある企業とかなり話が進んでいるとのうわさもありますが、市税で土地を買い取ったが企業は撤退なんてことは絶対に許せません。

残地の買い取り反対

市民の暮らし守れが住民の声

財政難だからと敬老祝い金を削り、上下水道料金も上げるなどさまざまな行政サービスを削りながら、なぜ大津市がこんな事業に手を出すのか納得できないというのが住民の声ではないでしょうか。

「市北部の活性化」とは聞こえがいいのですが、百年に一度の大不況の到来が言われている今、大津市が最優先すべきは、市民のくらしを守ることです。

4月から給食費値上げ！

小学校 500円 中学校 600円

あいつぐ食品の高騰で子どもたちの給食は、果物が少なくなりジャムで糖分を補うなどのメニューになっています。

岸本市議は、政府が発表している緊急経済対策を活用して、他の自治体が行っている高騰分の補助を大津市でも実施するように求めましたが、材料費は保護者負担が原則と、学校給食法を盾にした答弁に終始。

一部の資本家による投機マネーが引き起こした食料品の高騰を、保護者にだけ押し付けるべきではありません。

このほか、食の安全と自給率向上の観点から輸入小麦を米粉にかえることと、旧志賀町の給食を自校方式に戻すことを求めました。

乳幼児医療費助成制度の拡充を

県は、乳幼児医療費助成制度の所得制限を切り下げる案を発表しています。乳幼児医療費助成の拡充は、目片市長の公約です。県の動向と関係なく市の現行制度を維持すること、小学校卒業まで対象を広げることなどを迫ったところ、大津市独自の現行制度については、県の削減分は予算を増額して維持すると明言しました。

しかし、小学校卒業までの拡充は、他の福祉制度との均衡を図りながら進めると、公約には程遠い答弁。

発行 日本共産党

連絡先 大津湖西地区委員会

日本共産党大津市会議

岸本のり子

大津市和邇春日2丁目

ケイタイ 08003116387

新春号 (64)
09年1月11日

日本共産党

地域の切実な願い、運動とともに実現

市民のくらし・福祉をまもり、自治体の役割はたせとみなさんと一緒にがんばりました

一年をふりかえると

仰木の里でショッピングセンター再開

仰木の里団地内の唯一のショッピングセンターが撤退。車に乗れない人やお年寄りなどからの「何とかして」と悲鳴にも似た声をうけて、URが責任を持って新業者の誘致に努めるよう県会議員とともに粘り強く要請行動。12月から新店舗開店が実現しました。



これからも微力ながら全力で頑張ります。
今後とも宜しくお願いします
大津市議員 岸本のり子

途中トンネル無料化

永年にわたり、途中地元のみなさんには大きな負担と困難を強いてきた途中トンネル問題。三年後無料化のめどが立ちました。これも永年のみなさんの運動と、引き続いての日本共産党議員の議会での奮闘が、大津市や県を動かしました。

大津市が数十億円もかけて買い取って、競走馬育成やレストラン事業の誘致を計画している土地

びわこサイエンスパーク



志賀地域では

昨年の防災無線の復活に続き、町長リコールにまで発展した大型産廃処理施設の建設問題は、白紙撤回をかちとりました。

「北部のJR駅にもエレベーターを！」との、2200筆の切実な願いが込められた請願を議会に届けました。自民、公明などが否決にしましたが、さらに皆さんと一緒にがんばります。

国は、地方の独自性を強調しながら、こどもの医療費助成を自治体が制度化すれば、ペナルティとして交付税を減らしてくるなど地方の頑張りさえ阻害しています。

自公政権が進めてきた「構造改革」は国民に負担増と増税を押し付け格差と貧困は広がる一方です。

今年は選挙の年です。政治をかえるチャンスです。企業にモノ言える政党、本当に政治の中身が変えられる日本共産党の躍進にお力をお貸しください。